

# 英語科

## 異文化理解教育 インターネットを利用した「ライティング」教授法

仲田 恵子

**【抄録】** 英語の授業でインターネットを利用し、異文化理解をテーマに生徒の「ライティング」に対する意欲を高める教授法を試みた結果、単なるメール交換では効果が上がらないこと、通信する生徒同士が調査目的を持つ必要があることなどが証明された。また、学校を結ぶネット上ではインターネットを教育に取り入れる際に、文通、姉妹クラス、姉妹校の提携に代わって、通信する相手との合同調査や共同研究が望ましいという提案がされている。英語の「ライティング」教授法の一つとしてインターネットを利用した指導法を紹介する。

**【キーワード】** 英語・ライティング・異文化理解教育・インターネット・実践研究・MOO・WWW・E-Mail・Keypal Project

### 1. はじめに

平成7年6月に本校でインターネットが利用できるようになった当初から、高校2年生の英語サークルでインターネットを利用して海外の学校とメール交換をはじめ、その後、高校2年生のライティングの授業で自由研究（プロジェクト）として調査目的でインターネットを利用し、相手校の生徒の協力を得て、生徒は互いの研究課題を完成した。

英語の授業は通常、教科書にそって進めていくが、インターネットを利用して実際に英語で海外の生徒と交流することは生徒にとって強い動機付けとなり、英語学習に対する意欲を高めることができると同時に、異文化理解を深めることができる。この実践研究では、英語学習の手段としてのインターネットの可能性と課題について論じる。

### 2. Keypal Project：インターネットを利用したメール交換の限界

英語サークルの高校2年生の生徒を中心に、ハワイのプナホウ学校の高校生と2カ月にわたってメール交換を行った。プナホウ学校の生徒はインターネットを日本語の授業で語学学習のために利用していたので、生徒のメール交換は英語と日本語の両方で行われた。

本校の場合、大勢の生徒が手紙をタイプする時にマッキントッシュは数が足りないので、NECのPC98でタイプしてフロッピーディスクにテキスト保存し、そのフロッピーをマッキントッシュに入れて読み込んだ。メールソフトはユードラJで教師のアドレスを使い、相手校の教師に送った。

まず、こちらから自己紹介の英文手紙を送り、相手

校から返事が届いて文通が始まった。相手校の生徒は、こちらの生徒の自己紹介をすべて読んで、希望する相手に自由に手紙を書いてきた。英文が上手く流暢に書ける多弁な生徒には文通の申し込みが多く集まったが、自己紹介がうまく書けなかった生徒に対しては文通の申し込みが全くないものもあった。そのような生徒は仕方なく、申し込みが多数あった生徒に文通相手を分けてもらって返事を出した。

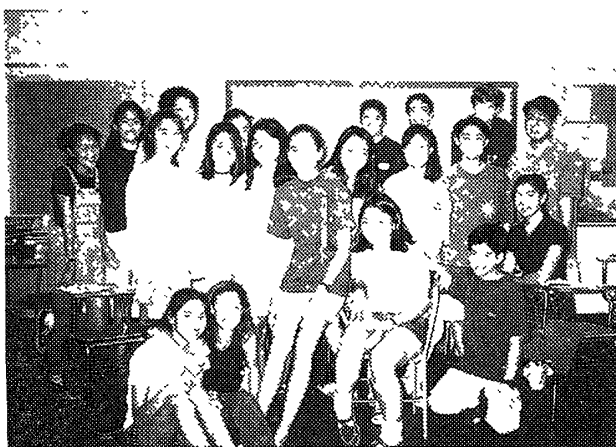
最初に送った自己紹介に対して返事をもらえなかった生徒は、表現力に欠け、話す内容が乏しいという共通点があった。英文手紙を書く際に、教師は英語表現の点で生徒の相談にのり、「話題が無い」生徒には、自分の興味関心のあることについて書くようアドバイスを与えたのだが、日頃自分から話題を提供することが少ない生徒の場合、手紙文で自己表現することには困難が伴い、結局自分について自己紹介の中で最低限の情報しか伝えることができなかった。一方、多数の返事が届いた生徒の場合、自分の趣味、友達、学校生活についても興味深い楽しい話題を提供している。

語学学習のためのメール交換は、最初は興味を持って取り組んだが、数回メール交換をした後、半数の生徒は飽きてしまった。特に男子生徒でこの傾向が見られた。彼らは「面倒だ、面白くない」という理由でサークル活動を欠席し、送られてきたメールに各自が誠意を持って返事を書くことができなかった。そのため、欠席した生徒のところへ届いた手紙の返事を、出席した生徒が書かなければならなかった。

生徒のメール交換は、本校の現状では教師を介して行っているため、プライバシーの保護が課題である。メール交換はライティングの意欲や能力を高める点においてある程度の効果は期待できるが、語学学習のた

めにやむを得ず教師が管理する状況が生まれており、残念ながらこれでは自然な交流が不可能である。プナホウ学校の生徒も、日本語で手紙をタイプすると、教師がまとめて送信するという状況にあった。

この点から、後に述べるグローバルスクールネットの「文通、姉妹クラス、姉妹校の提携はやめた方がいい」という指針はもっともであると考えられる。他校の報告に見られるように、メール交換は授業としてではなく、放課後に生徒の課外活動として位置づけ、生徒が自由にメール交換ができる環境整備が必要である。



プナホウ学校の「日本語2」  
オーナーズクラスの生徒たち

### 3. プロジェクトの効果的利用

次にプナホウ学校の高校生と、インターネットを利用して自由研究（プロジェクト）を行った。これは生徒が語学の授業で研究テーマを設定してグループ研究を行うというものである。グループでテーマにそって調査項目を考え、インターネットで相手校にアンケートを送り、協力を依頼した。本校では高校2年生の選択英語ライティングの授業でこのプロジェクトを実施した。

はじめにプナホウ学校の高校生から日本語の授業で作成したアンケートが届いた。テーマはグループにより様々で、本校の生徒は大変興味を持って回答した。アメリカ人高校生の書いた日本語を読んで、表現や語法のミスがあると「言い回しがおかしい」と楽しそうに笑って、「私たちの英語を読んで、アメリカ人はきっとこんなふうに笑っているね」と話していた。選択英語ライティングの授業では、生徒はテーマとして「アメリカの高校生の生活」を設定し質問項目を考えた。英語と日本語の両方でアンケートを作成しプナホウ学校の生徒に協力してもらい、回答を集めて集計した。その後、授業で生徒同士が調査結果について報告

会を兼ねてディスカッションをして情報交換をした。

資料1～6は、両校の生徒のプロジェクトの例である。

アメリカの高校生のアンケート調査に、本校の生徒は快く協力した。生徒は質問項目の日本語表現のまちがいを発見して楽しそうであった。丁寧に訂正しながら回答していた。こちらの生徒のアンケートの調査項目にも英語のミスがあったが、それは意味が通じない場合を除いては修正を加えずそのまま送った。

他の教師の授業でも同じ教科書を使って共通の試験を実施していたので、私の授業ではインターネットを利用した上記の調査をするために教科書を早く進めて時間を作った。従って一人1項目の質問を作るにとどまった。アンケートに答えたり、調査して結果をまとめても点数化して評価に加えることはできなかった。

本校の生徒の送ったアンケートのうち日本語で書いたものは、相手校でそのまま日本語副教材として利用できた。アメリカの高校生は質問にたいする回答をレポート用紙に日本語で書いて提出し平常点5点を獲得した。

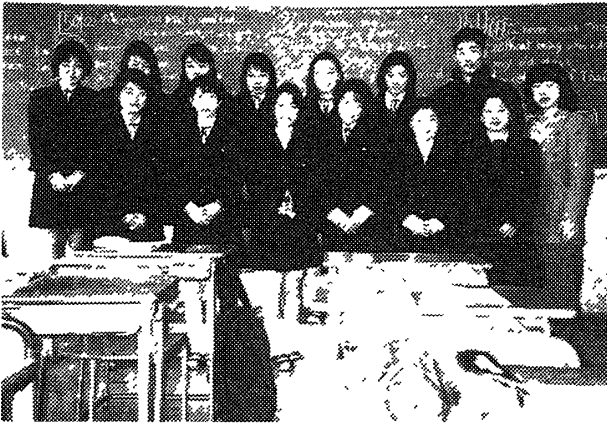
このようなプロジェクトの利点は、外国語を使って調査研究する過程で、グループで生徒が互いに協力しながら学習することができることである。また、英語表現はもちろん、相手の文化、習慣、ものの考え方などについても理解を深めることができる点で、単なるメール交換に比べて一層学習効果が高い。両校でプロジェクトを行うことにより、経験を共有することができた生徒同士は仲間意識が生まれその後自由にメール交換をする際にも長続きすると考えられる。

プロジェクトの進め方についても、海外の学校と交流することによりその質を高めることができる。アメリカの高校生は、まずグループで仮説を立ててから調査をする。集計後には調査結果と自分たちの仮説の差違について考察してまとめている。これは今後のプロジェクトの指導において大いに参考になる点である。

本校においてもハワイのプナホウ校でも、生徒が自由にメールを送ることができる環境ではなかったので、一度に多くの生徒にアンケート調査をするために、インターネットで送られてきた質問項目を印刷して配布した。また、生徒の回答を教師がタイプして電子メールで送る時間もなかったので、結局回答は航空便で送った。

アメリカの高校生の場合、タイプの授業を受けているのでメール作成も早くできる。一方日本の高校生はタイプの授業がないのでキーボードで入力するのに大変時間がかかる。理想としては、生徒各自がメールを開けて、ディスプレイの質問項目を読み、キーボードで答えを入力して発信することが望ましいが、入力に

時間がかかると教人で限られた台数のコンピュータを独占することになり、能率が悪く不公平が生じる。今後の情報教育の改善と環境整備が課題である。



本校の選択英語「ライティング」クラスの生徒たち

#### 4. 学校ネットの利用とネチケット

教師同士の情報交換、研究調査の提案、調査の依頼、共同研究の相手校募集の場として様々なサービスがインターネット上で行われている。例えば、アメリカの学校ネットの一つに IECC というリストサーブがあり、登録した読者宛に個人やクラス単位のペンパル募集や調査依頼が毎日送信されている。(Intercultural E-Mail Classroom Connections -- <http://www.stolaf.edu/network/iecc/>)

グローバルスクールネットでは、K-12 (幼稚園～高校3年生) の教員対象に HILITES というリストサーブを設けている。こちらでは、世界の教師がお互いに研究目的で共同プロジェクトに参加を呼びかけるものである。(HILITES -- <http://www.gsn.org/gsn/proj/hilites/index.html> 及び Global SchoolNet Foundation Home Page -- <http://www.gsn.org/>)

ネチケットとは、インターネットを利用してネットワーク社会で活動する際に心得ておくべきマナーやエチケットで、多くのサイトが参考になる。ネチケットの例として次のような事柄がある。「インターネット上のメールは安全ではないので葉書に書かないようなメッセージ [クレジットカード番号やパスワードなど他人に知られたくない個人情報や非公開情報など] は決してメールに含めてはいけない。文書を複製する場合、その著作権を考慮に入れる。ほとんどすべての国では著作権法が制定されている。電子メールでは、絶対にチェーン・レターを送ってはいけない。送信する内容には慎重さを、受信する内容には寛大さを心がける。メールのアドレスを書く時には慎重にする。個人のアドレスのように見えても、実はあるグループに

送られるというアドレスもあるので、誰に送ろうとしているのかを知っておく。受け取り人は、文化、言語、ユーモアの基準があなた自身とは異なっている人間であることを忘れない。日付の書式や、計測単位、慣用語は地域によって異なるものだとすることを忘れない。特に、皮肉 [いやみやあてこすり] には注意する。英語の場合、大文字小文字を混ぜて使う。大文字だけで書くと、あなたがシャウト (大声で叫ぶ) しているように見える。」(出典：東金女子高等学校 -- <http://www.togane-ghs.togane.chiba.jp/netiquette/index-j.html>)

<http://www.edu.ipa.go.jp/mirrors/togane-ghs/netiquette/>)

キーパルのためのネチケットガイドとしてハイネマン出版社主催の電子メール文通・プロジェクトを扱う Keypals: Online Projects and Activities (<http://www.reedbooks.com.au/heinemann/global/global1.html>) があり、その中では次のようなアドハイスが書かれている。「相手に対して尊敬の念を持ち寛容であること。平等の立場で、丁寧に応対すること。電子メールは個人的なものと思わないこと。誰か他人があなたのメールを読む可能性がある。住所や電話番号といった個人的情報を電子メールで知り合った人に知らせないこと。相手はあなたが考えているような人ではない可能性がある。電子メールで知り合った人に会う場合、子どもは大人に付き添ってもらうこと。大人は信頼する友人に付き添ってもらうこと。大人でも子どもでも、不愉快になるようなメールは読むのを止め、以降その人からのメールは読まずに捨てること。子どもがそのようなメールを受け取った場合は親に伝えること。」

(出典：Netiquette Guide for keypals. <http://www.reedbooks.com.au/heinemann/global/kplnetqt.html>)

また、東海インターネット協議会の「小・中学校のインターネット利用者からよく尋ねられる質問に対する回答集」(<http://www.tokai-ic.or.jp/Schoolnet/FYI/rfc1578-j.txt>) 及び K-12 インターネットワーキングガイドライン (<http://www.tokai-ic.or.jp/Schoolnet/FYI/rfc1709-j.txt>) がある。インターネットを用いた特別な目的のプロジェクトを見つける方法、教師たちがプロジェクトへの勧誘を投稿している電子メーリングリストやニュースグループへの参加に関する情報など、教育リソース、情報源とコンタクトの方法について解説している。

#### 5. プロジェクトを成功させるための指針

グローバル・スクールネットでは、インターネットを利用したプロジェクトを成功させるための指針を提示している。以下は著者が和訳した概要である。

①まず、研究目的、作業内容、研究結果を念頭にしっかりした計画を立てることが重要である。姉妹校やペンパルという形はさけて、元来の教育的な目的に沿ったものとする。

②研究開始と終了の日付を明確に示し、参加者の回答提出期限を定めること。研究の日程を立て、余裕を持ってプロジェクト開始の6週間前に勧誘を投稿し、2週間前に再度投稿すること。

③可能ならば、親しい同僚とプロジェクトを小規模なレベルで試してみると良い。技術的な問題や研究計画の欠陥を見いだすことができる。

④以下のテンプレートをを用いて研究計画を作成し、HILITES@gsn.org に送信すれば、国際メーリングリストに掲載する。以下の項目を含めて共同研究の勧誘をすること。

研究の目的・対象学年・希望回答数・責任者連絡先・研究日程・締め切り・主催者の学校住所連絡先・回答をどう処理するか(協力者にとっても得るものがあり共同研究の動機付けとなるような双方向性のある研究が望ましい)

⑤生徒の中から研究の一端を担う責任者を見つけると、時間が大いに節約できる。

⑥研究の最後には、すべての協力者に研究結果を知らせ、フォローすると良い。もし生徒の書いたものを印刷するならば、印刷物を参加者全員に送るとよい。研究のまとめを生徒に書かせ、研究内容、わかったこと、今後の改善点などをネットワークに載せて、共同研究の参加者だけでなく、他の読者にも知らせる。また、このまとめを研究報告書とともに校長やPTA役員、教育長などに送付すること。生徒は協力者全員に礼状を書くようにすること。(HILITES Projects list archives, and keys to success -- <http://www.gsn.org/gsn/proj/hilites/index.html>)

## 6. 指針にそった共同研究のサンプル

6月にグローバル・スクールネットに送った著者の研究プラン(資料9)では、ボランティア・プロジェクトと名付けて、生徒同士が自分の地域社会でボランティア活動をして得た情報や感想を意見交換し、ボランティアについてだけでなく文化や環境の相違と人々の意識の相違を学ぶことを目的としている。生徒は始めに電子メールを送る地域でのボランティア活動についての仮説を立て、質問項目を作り相手校に送信する。集計結果を仮説と照らし合わせて分析し各個人でまとめの報告書を書き、発表する。生徒は協力者に礼状の電子メールを送る。生徒の報告書をまとめて製版しクリスマスカードを添えて参加各校に郵送する。評価は自己評価と相互評価を合わせる予定である。この

研究は高校2年生の必修総合人間科の取り組みの一つにすぎないが、生徒はボランティア活動と英語のライティング活動とインターネットを経験することになる。評価方法については共同研究に参加する海外の教師と電子メールで現在討議している。この研究の詳細については来年の研究紀要で報告する。この研究プランは HILITES 7-12 Volunteer Experience Exchange として <http://archives.gsn.org/hilites/0334.html> に登録されている。

## 7. 英語教育におけるインターネットの可能性と課題

インターネットを利用した教育の中でも、特に英語は世界共通語であるので世界中の生徒同士が英語を使って情報交換し学び合うことができる。教科書に縛られている日常の授業を発展させようとする時、次のようなインターネット利用の方法がある。

①WWW を利用した情報探索

②電子メール交換

③研究調査

④電子会議

例としては、コーネル大学が開発した CU-SeeMe と呼ばれるソフトウェアとデジタルカメラを使えばモニター上で相手の顔を見ながら話すことができる。

⑤仮想現実世界 (Virtual reality)

例として schMOOze University と GrassRoots の MOO がある。両方とも telnet でアクセスして利用する。WWW でもホームページを見ることができるが、インターアクティブな体験をするためには telnet が有効である。MOO とは MUD Object Oriented の略で、MUD とは Multi-User-Dungeon (Dimension) の略である。

MOO や MUD は、インターネットの telnet サービスを利用した、文字による共同作業のための仮想空間システムである。この空間内はいくつもの部屋に分かれており、同じ部屋にいる人は、お互いに文字によってリアルタイムなやりとりをすることができる。情報の溢れる WWW のページはマルチメディアで目がくらむが、仮想世界の双方向性は MOO でのみ体験できる。

schMOOze University (<http://schmooze.hunter.cuny.edu8888>) はニューヨーク市立大学のハンター大学にホームがありインターネット上に開かれた英語学習者のための仮想大学である。schmooze.hunter.cuny.edu8888 に telnet して利用する。この仮想大学の利用方法などさらに詳しい解説は <http://www.cc.rim.or.jp/~awaji/schMOOze> にある。

GrassRoots はセント・ジョンズ大学の心理学者た

ちが主催で、グローバルビレッジの概念のもとに世界の子どもたちがオンラインで共同社会を作って市民として生活しており。生活、教育、文化娯楽、支援、情報の各サービスがある。グラスルーツは rdz.stjohns.edu に telnet してログイン ID は grass、パスワードは changeme と入力する。さらに詳しい資料は <http://rdz.stjohns.edu/grassroots/telnet.html> で見ることができる。

ここではリアルタイムで英文筆談ができる。筆談するために一定のルールがあるが、生徒も教師もサバイバルスキル（話し方）を簡単に覚えることができる。例えば、だれが今 MOO にいるのか知りたいときは @who と入力する、自分と同じ部屋にいる人に声をかけるときは "hello と入力する。物を見るときは look object と入力する。

残念ながら、MOO を利用して海外の人と話すとき、時差の問題や、多人数で MOO を同時に利用するためには物理的な制約があることなど困難がある。英語サークルで GrassRoots の MOO にアクセスしたところ、2度成功し管理者とは話しができたが、その後はうまく繋がらなかった。アラスカ、カナダ、フィンランド、ニューヨークの子どもたちが参加しているはずであったが、時差があるため、放課後の部活動の時間に生徒が telnet したときは誰も話す相手がいなかった。

MOO のような仮想現実世界では、日頃英語でコミュニケーションをする機会の少ない日本人学生にとって、自然な状況で英語を使うことができ双方向にコミュニケーションな英語体験を実現できる。

これまで、必修総合人間科（高1・中3）、選択総合人間科（高3）、英語ライティング（高2）、パソコンサークル、英語サークルなどでインターネットを利用してきたが、今後は多人数授業でインターネットを活かす有効利用法を様々な観点から具体的に考えて、楽しみながらコミュニケーションの道具として英語を使うよりよい学習環境をつくっていかなければならない。そのためには英文タイプや英文ワープロの習得などを情報教育に盛り込んで全員に開講すべきである。

また教育研究の面では、インターネット利用の実践報告にとどまらず、評価方法を確立して、英語教育にどのような効果を上げているのかを実証的に検証していかなければならない。生徒の動機付けが大きく高まったということだけでなく、つづりの正確さ、文法、語彙、多弁さなどの英語能力、異文化理解、多様な価値観の理解、視野の拡大、趣味・生き方・考え方の変化などの面での効果を実証する方向で研究を進めていく必要がある。

## 参考文献

研究社「英語教育」4～7月号、1996

Warschauer, M (Ed), 1995. E-Mail for English Teaching: Bringing the Internet and Computer Learning Networks into the Language Classroom. TESOL Publications.

Warschauer, M (Ed) Virtual Connections (SLTCC Technical Report # 8) Honolulu, HI. University of Hawaii, Second Language Teaching and Curriculum Center.

IECC Intercultural E-Mail Classroom Connections -- <http://www.stolaf.edu/network/iecc/>

HILITES: Projects list, archives, and keys to success -- <http://www.gsn.org/gsn/proj/hilites/index.html>

ネチケット

<http://www.togane-ghs.togane.chiba.jp/netiquette/index-j.html>,

<http://www.edu.ipa.go.jp/mirrors/togane-ghs/netiquette/>

Netiquette Guide for keypals

<http://www.reedbooks.com.au/heinemann/global/kplnetqt.html>

GrassRoots

<http://rdz.stjohns.edu/grassroots/>

資料1 アメリカの学校のグループ研究例 日本語プロジェクト調査項目

日本の皆さんへ

日本語二オーナーズクラスのアンケートです。短い答えでいいですから、質問に答えてください。答えは英語でも日本語でもいいです。よろしくお願ひします。お返事は 2月22日ごろまでに送ってください。ありがとうございます。

日本語教師 エイディ淳子 Junko K. Ady  
プナホウ学校 Punahou School  
教師 (日本語) Japanese Teacher  
e-mail: jkady@punahou.edu (English and Japanese)  
jkady@lava.net (English and Japanese)

(プナホウ校の教師からのメッセージ)

- ① しつもんにごたえてください。どうもありがとうございます。  
たましろ タミ、おがたりえこ、たかはし みつこ、よしの トレシイ

しつもん

- 1) にほんで 一ばんゆうめいなどうわは何ですか。
- 2) あなたの 一ばんすきなどうわは何ですか。
- 3) あなたの 一ばんすきなどうわのテーマは何ですか。
- 4) うましらたろうとももたろうでどっちのほうがすきですか。
- 5) うましらたろうとももたろうでどっちのほうがもっとゆうめいですか。
- 6) どうしてどうわをおはなしをしますか。
- 7) どんなどうわをわたしたちにすすめますか。
- 8) どうやってさいしょこのどうわのおはなしをききましたか。
- 9) あなたの 一ばんすきなどうわの人ぶつはだれですか。
- 10) どうしてですか。
- 11) 何年生ですか。
- 12) 何才ですか。
- 13) どこにすんでいますか。

②

- 1) たいてい何ののり物をのりますか。なぜ使いますか。
- 2) なぜほかののり物を使いませんか。
- 3) 毎日のり物のりよう金はいくらですか。
- 4) 家からし事か学校までどのくらいありますか。
- 5) どのくらいかかりますか。
- 6) 毎あさ何時に家から出かけますか。何時に家に帰りますか。
- 7) ラッシュアワーはいつですか。
- 8) おそかったら、タクシーにのりますか。
- 9) 日本でどんなのり物がありますか。
- 10) どののり物が人気がありますか。
- 11) 一番あぶないのり物は何ですか。
- 12) 新かんせんにのると地下てつにのるとどちらの方が早いですか。
- 13) 新かんせんにのると地下てつにのるとどちらの方がべんりですか。
- 14) あなたの一番好きなのり物は何ですか。
- 15) 日本ののり物がいいですか。わるいですか。なぜですか。

## 資料2 アメリカの学校のグループ研究例 プロジェクト前の仮説

「私たちは日本でのもりものについてもっと習いたいです。だから、ワイキキとアラモアナセンタで日本のかんこうきやくと話しました。そしてイ・メールで日本人に書きました。

日本はとても小さくて、いそがしいですから、たくさん人がいます。ですからラッシュアワーがわるいでしょう。にほんのとおりがたくさんこんでいます。そしてマイカーが少なくてふべんでしょう。

日本人はいろいろなりものを使います。日本のりものの中で新かんせんが一番人気でしょう。新かんせんは早くてべんりですから。中略。

日本のりものとハワイのりものがちがいます。ハワイで電車や新かんせんや地下てつなどがありません。そして日本のりものがおもしろいです。」

(アメリカ人の生徒が提出したレポートより)

## 資料3 アメリカの学校のグループ研究例 プロジェクト後のまとめ、感想文

「このプロジェクトはとてもたのしくておもしろかったです。私たちはたくさん習いました。中略。

わたしたちの仮定はけっこうちがいました。生徒は家から学校まで自てん車にのらなければなりません。だから自てん車をもっと使います。自てん車にのることがやさしいと安いですから35%は自てん車にのります。そして30%は電車にのります。毎あさ、6時30分から8時45分まで日本人は家から出かけます。あさのラッシュアワーは7時から9時までです。毎日のり物のりょう金はゼロ円から4百円までです。だいたい2百円ぐらいです。(以下省略)」

(アメリカ人の生徒が提出したレポートより)

## 資料4 本校のグループ研究例 調査項目 (英語)

Hello friends. We are students of Nagoya University High School.  
In English Class we made some questions. Will you help us with our project on high school life? We wrote our answers. Will you please send us your answers?  
Thank you.

### 1. How do you spend your holiday?

My dog name is 'Chibi'. We sometimes go to mountain.

Do you know 'karaoke'? I like 'karaoke' very much, so I often go to 'karaoke' with my friends after school. There are a lot of 'karaoke' in Japan. (Wakako Inoue)

### 2. Where do you have lunch?

I have a lunch with my friends in class A every day. We sometimes buy lunch at Lawson, Mr. Donut, Mini Stop, on our way to school. (Yoko Nagatani)

### 3. Do you read comics at school?

Yes, I read. Many students brings it and exchange. I like comics. I lend it, too. Those comics are interesting very much. (Miho Fujii)

### 4. What day do you like best when you look at timetable?

I like Wednesday because I have art class. But I don't like painting class because . . . It's a secret. (Kyoko Tokida)

### 5. What subjects do you like? What do you think about classes?

I like English. I think difficult subjects should be selective. For example, math 2 and chemistry. (Tomoko Okamoto)

6. Do you stop by somewhere on the way home? Where do you go?

Some of my friends go to Juku. Many of them are go to Kawai Juku. But I don't go to juku and I don't want to go to juku. Because if I go to juku, I can't study there because of talking to much. At Kawai Juku they can eat and drink during the lesson! (Yumi Uchida)

7. Do you have a part time job?

No, but I want to have a part time job. I want to work at a book shop. (Ritsuko Indoh)

8. When does your summer vacation start?

Please tell me when your summer vacation starts.

Our summer vacation begins July 20th. Our summer vacation is for forty days. I think maybe your vacation is a lot longer than ours. I envy you. What do you do in your summer vacation? (Yukiko Kajiwara)

9. What happen if you sleep during the class?

I feel very happy when I sleep during the class and in the train. (Michie Yamaoka)

10. Do you have school uniform?

I don't like school uniform. It's too expensive. I like short pants. (Takahiro Ito)

11. Do you have something that you are crazy about?

I like Bon Jovi very much. I have two CDs of Bon Jovi. When they came Japan, I would like to go to their concert. But I couldn't go there because I couldn't get the ticket. (Hiroko Okimoto)

12. Do you enjoy school life?

No, I don't. I don't like studying. I like lunch time the best because I can talk to my friends about TV, fashion, music, and so on. (Michiko Ohi)

13. What kind of club in your school?

My school has tennis, archery, baseball, and so on. I'm in swimming club. So I'm busy in summer. (Misato Hattori)

(調査項目の英文について、生徒の英語のミスは訂正せずそのまま相手校に送った)

#### 資料5 本校のグループ研究例 調査項目 (日本語)

こんにちは。わたしたちはこうこう2ねんせいです。 えいごのくらすでしつもんをつくりました。こうこうせいのせいかつについてしらべています。わたしたちのこたえをかきました。みなさんのこたえをおしえてください。どうぞよろしくおねがいます。ありがとうございます。

しつもん

1. やすみの日はなにをしますか。

- ・かぞくとペットの犬をつれてどこかにあそびに行きます。
- ・ともだちとかいものに行ったり、カラオケに行きます。(いのうえ わかこ)

2. ランチはどこでたべますか。

- ・ともだちといっしょにきょうしつでたべます。がっこうではきゅうしょくがありません。まいにち母がつくってくれたおべんとうをがっこうへもってきてたべます。がっこうでパンやジュースをかうことも



できます。(ながたに ようこ)

3. まんがを読みますか。
  - ・はい。よみます。多くの生徒はまんがを学校へもって来てこうかんします。しかし、学校ではゆるさされていないことなのでかくれてよんでいます。みんなまんがが大好きです。(ふじい みほ)
4. じかんわりの中で好きなようびはいつですか。
  - ・わたしはすいようびが好きです。びじゅつのじゅぎょうがあるので。(ときだ きょうこ)
5. かもくの中でなにがすきですか。
  - じゅぎょうについてどうおもいますか。
  - ・えいごがすきです。むずかしいかもくはせんたくかもくにすべきです。たとえば、すうがく2やかがくなどです。(おかもと ともこ)
6. 学校のかえりによりみちをしますか。どこによりますか。
  - ・さかえや、なごやえきにいったかいものをします。つかれますがとてもたのしいです。(うちだ ゆみ)
7. あなたはアルバイトはしますか。
  - ・しません。もしアルバイトをしておやに見つかったら、おこられます。がっこうでもきよかされていません。(いんどう りつこ)
8. がっこうはいつやすみがありますか。
  - ・にほんのがっこうは、4がつにはじまります。なつやすみは7月20日から8月31日で、40日のやすみがあります。クリスマスとしんねんは12月で2しゅうかんやすみがあります。はるやすみは3月のおわりに2しゅうかんやすみです。(かじわら ゆきこ)
9. じゅぎょうちゅうにいねむりをするとどうなりますか。
  - ・せんせいにちゅういされるか、むしされます。(やまおか みちえ)
10. せいふくがありますか。
  - ・はい。だんしのせいふくは、なつは白いシャツをきます。冬はくろのがくせいふくです。ズボンは1年中黒の長いズボンです。ねだんがたかいです。(いとう たかひろ)
11. いま、むちゅうになっていることはありますか。
  - ・はい。わたしはいま、おんがくにむちゅうになっています。(おきもと ひろこ)
12. がっこうはたのしいですか。
  - ・いいえ。わたしはべんきょうがきらいです。(おおい みちこ)
13. どんなかつどうがありますか。
  - ・わたしがっこうでは、テニス、きゅうどう、やきゅう、などがあります。いちばんにんずうがおおいのはテニスです。(はっとり みさこ)

#### 資料6 本校のグループ研究例 プロジェクト後のまとめ、感想文(抜粋)

「マンガを読むかという質問に対して、イエスが3人、ノーが20人でした。マンガを読まない人が多く、好きじゃない、嫌いだと答えた人がありました。日本人はマンガが好きでよく読むと思います。質問をもう少し幅広く答えられるように工夫すると良かったと思います。アメリカ人の答えが面白く楽しかったです。」

「学校の帰りに寄り道をしますかという質問に対して、Most of the Hawaiian students go straight home. Some students go to shopping centers, some students go to the library, and others go to lessons such as tennis and swimming.」

「アルバイトはしますかという質問に対して、アルバイトをしていない人が多いけれど、やりたいと思っていたりやる予定の人がその中にたくさん含まれていました。アルバイトをしている子は、学校内でしている人が多く、他は洋服店でしている人もありました。アンケートはおもしろかったです。イエス、ノーで答えられる質問でなく、アルバイトの頻度や時給、そのお金を何に使うかなど、質問の仕方を工夫して書けば良かったと思いました。」

「学校はいつ休みがありますかという質問に対して、たくさん返事がもらえてうれしかったです。ハワイでは夏休みは3カ月、冬休みは約2週間、春休みは5日間くらい学校が休みになるそうです。その他、クリスマス、サンクスギビング、イースター、コロンブスデーなどがあります。夏休みは長いのでサマースクールに参加して授業をとったり、キャンプに行く人もあります。」

「授業中に居眠りをするとどうなりますかという質問に対して、20名中10名が居眠りはしてはいけな

いと答えていました。その理由として、先生の言っていることを聞き逃す、先生が怒る、ねむくない、単位を落としたら自分の責任だなどの答えがありました。Ten students out of twenty answered that they don't sleep in class. Five students answered that they are not sleepy in class.]

「学校は楽しいですかという質問に対して、ほとんどの生徒が学校は楽しいと思っていますがその理由は友達が好きだからと答えていました。アメリカの学校は宿題がたくさん出て、生徒はそれに対してすごくストレスを感じています。嫌いな理由はテストがあるからと勉強が難しいからと答えていました。」

「学校でどんな活動がありますかという質問に対して、テニス、野球など運動系が多かったです。ほとんど日本と同じ種類の部活やクラブ活動があることがわかりました。私たちの学校と違う点は、「地球を守る」クラブやディベートなどの活動があることです。」(以下省略)

資料7 共同研究のサンプル： ボランティア・プロジェクト

### HILITES> 7-12 Volunteer Experience Exchange

---

Keiko NAKATA (knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp)

Fri, 14 Jun 1996 07:45:49 -0700

<http://archives.gsn.org/hilites/0334.html>

Global SchoolNet - Automated Message Archive

PROJECT : Volunteer Experience Exchange

TIMELINE: September 1, - October 31, 1996

#### PURPOSE:

Students will gain understanding of volunteers by participating in various local volunteer activities, and also by learning how students of other parts of the world take part in volunteer activities. For ESL and JSL students it will provide an opportunity to learn language skills such as reading and writing.

#### SUBJECTS: Multidisciplinary

ESL, Japanese, home economics, science, handicapped, Sign Language, environment, Health education, Continuing Education,

GRADE LEVEL: 7-12

#### SUMMARY:

I am looking to organize a Volunteer Experience Exchange Project with interested classes. Students will participate in volunteer activities in their community such as helping the handicapped, the elderly, children, foreigners, and preserving the environment and so on.

Then they will learn how students of other parts of the world take part in volunteer activities by comparing information and exchanging impressions of their experience. I look forward to working with you.

**NUMBER OF PARTICIPANTS:** at least 2 classrooms

I have approximately 15 to 20 Japanese students in my class. They are in the 10th grade, learning English as a foreign language.

**PROJECT COORDINATOR:**

Keiko Nakata

(English and homeroom teacher of 10th grade)

email address: [knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp](mailto:knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp)

School Name: Nagoya University High School

Office Phone: 81-52-789-2694

Grade(s) taught: 10th and 12th grade English

**School Address:**

Senior High School, School of Education, Nagoya University

Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464 Japan

School voice phone: +81-52-789-2681

Fax: +81-52-789-2696

**REGISTRATION:** To Register for September/96, please send email to

Keiko Nakata

email: [knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp](mailto:knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp)

\*Please include the following information:

Your full name:

Your email address:

Grade(s) taught:

Subject(s):

Your school:

School address:

School voice phone:

School fax:

**PROJECT OUTLINE AND PROCEDURES:**

Summer - October

Students will participate in local volunteer activities in their community.

September - October

Students will discuss their volunteer experience with their classmates in class.

Students will write their experience in English or Japanese.

Students will exchange the information and their experience about volunteer activities through the internet.

Students will send thank-you message to all contributors by email.

October – November

Students will compare the volunteer activities in their community and write a report including reflections of this project.

December

Students will compile a report of this project in groups and send a hard copy to the participating classes to share the results of the project with all participants. We will mail this report with a Christmas card at the beginning of December.

<knakata@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp>-----

Keiko Nakata, English Teacher

Nagoya University, School of Education

Affiliated Upper and Lower Secondary Schools

<http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/huzoku/index-e.html>

<http://www.nagoya-u.ac.jp/index-e.html>

-----  
The HILITES projects list is a service of the Global SchoolNet Foundation.

See our WWW pages at <http://www.gsn.org>

Post your project announcements to

[hilites@gsn.org](mailto:hilites@gsn.org).

To obtain project criteria send "info hilites" to [majordomo@gsn.org](mailto:majordomo@gsn.org).

To unsubscribe send "unsubscribe hilites" to [majordomo@gsn.org](mailto:majordomo@gsn.org).